

松木川・丹平治沢～大ナギ沢下降 2015/09/05

メンバー：落合（CL）, 齋藤（SL）, 飯野

天候：晴れのち曇り

銅親水公園 6：00 丹平治沢出合 7：00 稜線 13：20 大ナギ沢出合 16：45 銅親水公園
17：15

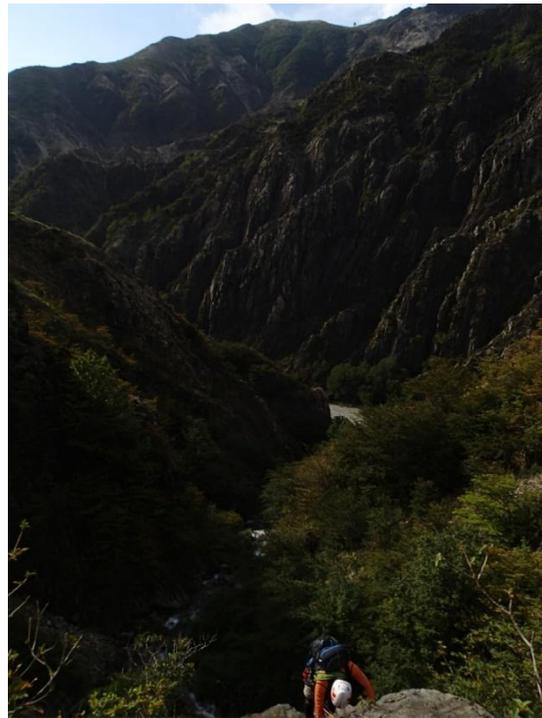
松木溪谷は我々にとってお馴染みの岩場であるが、丹平治沢は松木川流域ではアプローチを含め比較的取りつきやすいルートで、筆者に取っては昨シーズン雨天で流れたりマインド山行となる。

猛暑の8月上旬から一転、中旬以降は冷夏が続き盛夏の沢登りシーズンはアツい間に過ぎ去り、すっかり秋の気配となってしまった。

幕岩の対岸が丹平治沢出合、銅親水公園からちょうど1時間。出合から少し覗くと下部の連瀑が見えるので出だしから溪相は良い。



12m 滝、オブサベーション（左）



幕岩をバックに、鉱毒や歴史を抜きにしたら皮肉なことに見栄えがするのまた事実（右）

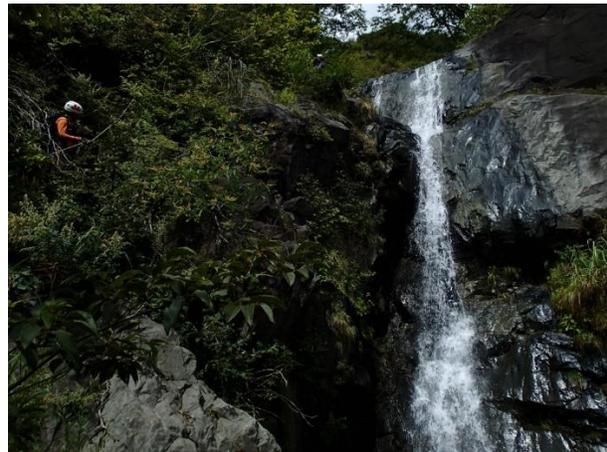
25m 滝は水量多く豪快だが、黒光りしていかに滑りそうな岩でルンゼを高巻き、中間は単調なゴ
ー口歩きが意外と多くて流木も目立つようになり、丹平治沢もこんなもんかと内心思っていたら 40m
大滝が現れる。

大滝は岩壁の向こうゴルジュちっくな三俣の左俣に横から落ちていて、丹平治沢のハイライトと呼べ
る。

右俣は涸れ中俣は水量乏しくいずれもショボいが、中俣のテラスから 1 ピッチ目は齋藤さんリードで
水流を横断、2 ピッチ目は落合リード、再び水流を横断しながら右壁をヘツリ上がれば越えられそだが
がスラビーな登攀で落ちたらツルンと滑り滝底に吹っ飛びそうなので、とても取りつこうとは思わない。

右岸はハングった壁なのでトラバースで偵察しながら直登してみる、核心はIV級程度で傾斜が強く
高度感があるのでナカナカ緊張感のある登攀となる、これが'美味しい所'か、'罰ゲーム'かと考えるのは
気持ち次第だが、大滝の詳細は他人の記録や情報もロクにみてこなかった（というかあまり出回って
いない）ので、この先どうなってるんだろ的な感じでドキドキしたけど、「こういうところは順番的に自分がまわ
ってくるのね、」と内心思いながら渋々登ってみる。。

核心はプロテクションに乏しいと少々ヤラシいので突っ込むのに躊躇したが、ラバーソールはバッチリ
岩に乗れるし、乾いた岩は松木ジャンダルムに近くカムもしっかり決まり、終了点からの景色もらしい雰
囲気で中々爽快だった、、と踏まえると今回美味しい所は筆者が持って行ったということにしておこう。



CS 滝はスリングでエイド〜お助け紐で突破（左）、

3 ピッチ目は再び齋藤さん、水流近くは登れないので右岸のガレ藪を越えて登攀は終了（右）

大滝は 40m とされているが実際に登ってみると、どこまでをひとつの滝とみなしているのか不明だが

最上部の落ち口までとなると優に 40m 以上はあったんじゃないかと感じた。

源頭は湧き水で水も冷たく水流は 1,500m 上部で突然消える、上部はガレガレで尾根に乗ったほうが早いので傾斜が緩くなったところを拾い稜線に出るが、笹藪は低く踏み後はほとんどなかった。

数年前の大雪の影響で「丹平治沢は鹿の墓場」なんて噂を聞いていたが、「30 以上は余裕でいたよね？」というくらいの骨を目撃したので噂はまんざら嘘ではなかったようだ。

角付きの頭蓋骨から背骨まで骨のレパートリーも豊富に散乱していたので、沢水はとても飲む気にはなれないが源頭だけは湧き水なので美味しく頂きました。

稜線は低い笹藪で一般登山道と大差ないくらい快適で、太平山まで足を伸ばせば足尾側から中禅寺湖をみるというロマンがあったが、ガスで視界が閉ざされてしまったし時間も押しているので迷わず下降。

大ナギ沢の下降はガスに巻かれトリッキーで読図に力が入るが、1,800m 付近から笹藪の沢地形を拾い下降し中間部で視界が開けるが、対岸の景色がなぜか幕岩でこれから下降する沢がどうにも見覚えがある三俣のような雰囲気。（大ナギ沢を下降する場合は対岸の景色はジャンダルムや中倉山より左手に出るはずなのだが、..）

「この下って丹平治沢の三俣じゃね？」、地図でまわりの地形をよく確認したら我々は見事に丹平治沢の右俣源頭を下降してきてしまっていた。。

本来、二つ隣の沢を下降しなくてはならないのにコレには猛省というよりショッキングだった。

原因はいくつかあるが、高度計が気圧の変化で大きくズレていて下降点の地形と標高が合致してしまっていたことだろうか。地図読みばかりは毎回反省してもなかなか難しい課題である。

ただ今回は間違いに早く気付いて修正出来たが、獣道相まって沢を横断するのは意外と容易で鹿さん様様である。外の山域では沢の横断なんて有り得ないことだろう。横断途中、案の状丹平治沢の大滝上部が見えてそのまま下降したらハマってたなあ～なんて話をしながら牧歌的な雰囲気の大ナギ沢右岸尾根を下降し、最後はとりあえず大ナギ沢に降り立ったので大ナギ沢を下降したということにしておこう（笑）

丹平治沢を総括すると一般的とは言い難いが、核心は大滝を中心とした登攀がポイントとなる。

各々の滝も直登するか高巻くかはパーティーの技量次第で、ルートファインディング力やナチュ・プロ技術を学べる松木溪谷の沢登りバージョンといった感じで試される感があるが、太平山までの標高差は 1,000m 程度あるので全体的な内容はそれなりにあるとあっていい。

上部から対岸のウメコバ沢の全景がよくみえたが、ウメコバしかり、黒沢、無名沢、足尾最大の滝を掛ける小足沢など沢登りで完全遡行してみる価値のある沢は足尾にもまだまだたくさんあるがどれも非常

に悪そうで一筋縄ではいかないだろうと実感した。（松木川流域には恐らく沢登りでもクライミングでもない、メンタルやフィジカルが要求される気がする）

下山後は会の創立記念行事に合流、当会は今年で創立 62 周年を迎えた。

例年通り銅親水公園近くで安全安泰祈願の神事を行ったが、何故か毎年雨に見舞われることが多い。

夜は BBQ で夜が更けるまで山について語らうのが恒例だが、翌日は毎年松木溪谷で交流クライミングを予定していても雨で登れた試しが無いので、今年も深酒して燃え尽きたメンバー一同でした。。

（記録：落合）